三宅 由佳莉さん インタビュー

ずっと自衛官として歌いたい

「翼をください」忘れがたい出来事

―なぜそんなに変わってしまったのですか。

「まず、それまで試みがなかった海上自衛隊音楽隊の初めての女性ボーカリストの募集という点に興味がわきました。また遠洋練習航海などで日本だけでなく世界に向けて発信しているという活動にも興味がありました。なおかつ自分が好きな〝歌〟を、もう一度試すチャンスに挑戦しようと思って、受けることにしました。そうしたら合格。すごくうれしかったです」

―入隊後は海上自衛官として基礎訓練を受けられたのですね。

「横須賀の教育隊で約5カ月間、他の隊員と同じように訓練を受けました」

―基礎訓練も含めて今までで最も苦しかったことは。

「（基礎訓練は）すべてがきつかったです。慣れない生活習慣に適応していくことに時間がかかりました。体力面でもしんどかったですけど。規律や厳しい規則を守っていくということが大変でした」

―どうやって克服したのですか。

「全然笑わなくなっちゃったんです。このままやっていけるのかな、逃げ出したいな、と思っていたんです。女性隊員は60人くらいで生活していたんですけど、ある時、教室でみんなを前に歌を披露する機会がありました。何げなくアカペラで『翼をください』を歌ったんですが、そしたらみんなが泣き始めたんです。衝撃を受けました。歌うことの意味を初めて知ったような気がしました。歌を歌うことは人を励まし、心を開いてもらうきっかけになるんだということを、初めて経験しました。皆との団結感が一層増して、厳しい訓練も乗り越えることができたと思います」

―歌の持つ不思議な力ですね。

「その時の感覚は忘れてはいけないと思っています。音楽隊に配属されてからも〝初心〟として忘れずに自分の根っこの部分にあります。適当になりそうだったり、道をそれそうになったりした時に思い出して、一生懸命やらなきゃダメだ―と自分に思わせてくれる出来事でした。その時の感覚や気持ちをすごく大切にしています」

―将来の夢、目標は。

「目標はずっと自衛官として歌い続けることです。夢は、隊員の前で、もっと歌うことです。私は音楽隊の役割は国民と自衛隊をつなぐ〝架け橋〟だと思います。国民のみなさんに『ありがとう』と励ましてもらうことがあります。しかし実際にがんばっているのは、私たち音楽隊の向こう側にいる自衛官です。そうした自衛官が汗を流して活動していることに対して『ありがとう』と言ってもらっていると思っています。それを隊員に向けて演奏することで、国民の皆さんの感謝の気持ちを伝えられたらと思っています」

―「祈り～未来への歌声」のアルバムが発売されて1年がたちます。発売前と比べて何が変わりましたか。

「ずいぶん変わりました。最初はこんなに反響があるとは思っていませんでした。びっくりしました。私たちは普段は、お客さまに対して直接演奏しています。しかし、『病院で聞いています』とか『家で聞いています』といったお便りが届くようになりました。私たちが、なかなか足を運べないところの皆さんに聞いていただき、すごく意味があったなと感じています。実際にお会いできないのは残念ですが、CDを通じてつながる。私のことや自衛隊のことに関心を持ってもらい、知っていただき、とても感謝しています」

正直な自分と向き合いこつこつと

好きな曲は「Your Song」

―今後、近い将来の活動予定を〝任務〟に支障のない範囲で教えてください。

「10月に埼玉県でコンサートの予定があります。九州は来年の2月か3月に佐世保音楽隊とのコラボで歌う予定です。一般の方も聞くことができます。事前の応募が必要です」

―イタリア語や英語でも歌われています。語学は堪能なんですね。

「勉強中です。教えてもらったり調べたりして歌っています。少しずつできるようにしていって、いろんなジャンルの歌が歌えるようになり、いろんな人が楽しんでもらえたらいいなと思っています」

―三宅さんはラグビーの国際親善試合といった大きなイベントで国歌を歌われることも多いですね。ネット上には、東京五輪では三宅さんに国歌を歌ってほしい―という声も上がっています。

「国歌を歌う時は毎回（手を口元に近づけながら）心臓がこの辺に飛び出してくる感覚で、すごく緊張しています。いろいろなところで『国歌を歌う仕事は自衛官に任せよう！』と言われるくらい安定して歌えるようになれたらいいですね」

―日頃、三宅さん自身はどんな音楽を聴かれるのですか。

「トレーニングで走っているときには、AI（あい）さんとか安室奈美恵さんとか、Perfume（パフューム）とか聞いています。好きな曲はエルトン・ジョンの『Your Song』です。なぜかピンポイントで好きなんです」

―余暇はどのように過ごしているんですか。

「一般女性と同じです。外にご飯を食べに行ったり、ショッピングしたりしています。二子玉川が好きです。映画もよく観に行きます。この間は『るろうに剣心』と『アナと雪の女王』を見ました。『アナ雪』は大好きな映画です。歌っていますよ！『Let It Go』を」

―三宅さんの『Let It Go』ぜひ聞いてみたいですね。ところで「祈り～未来への歌声」に収録されている『浜辺の歌』や『ふるさと』は小さい頃、岡山のおばあさまと一緒に歌われていたそうですね。

「大好きな歌です。懐かしい昔に戻れる歌。ホッとする歌というか。とても大切にしています」

―話題の写真集「国防女子」では空手の回し蹴りを披露されていますね。

「学生のころ、やっていました。空手学科（笑）。ほぼ毎日空手ばかり。学生時代に二段をとりました。今はなかなかできませんが、続けていきたい気持ちがあるので、いつか復帰できたらいいなと思っています」

―九州・福岡のビジネスパーソンにメッセージを。

「（笑）そんな難しいです。わたしそんな大した人間ではないです。ついつい見えを張ってしまい、大きくみせようとしちゃうんです。でも見えを張らずに正直な自分と向き合って、焦らず地道にこつこつやっていけたらいいなといつも思っています」

―三宅さん、読者に向けたメッセージを。

「そんな偉そうなことはいえないです。どうしましょう」

（写真　渡部孝弘）

みやけ・ゆかり　86年（昭61）生まれ、岡山県倉敷市出身。日大芸術学部音楽学科声楽コースを卒業。09年海上自衛隊入隊、東京音楽隊配属。海上自衛隊初の女性ボーカリスト。３等海曹。

13年にリリースしたアルバム「祈り～未来への歌声」は第55回日本レコード大賞企画賞、第28回日本ゴールドディスク大賞クラシック・アルバム・オブ・ザ・イヤー、第６回ＣＤショップ大賞クラシック賞を受賞。